

4/14 岩福

大阪一般患者制限も

医療関係者「現場疲弊、限界超え」

大阪府内での新型コロナウイルス感染確認者数が十三日、千人を超えた。重症病床の使用率は九割超に達し、一般医療の制限も始まっている。感染拡大は止まらず状況は厳しさを増す見込みで、医療関係者は「既

に医療崩壊の状態だ」と危機感をあらわにする。隣接する府県も感染拡大が止まらない状況だ。

府医師会の茂松茂人会長は十三日、取材に「これ以上

内で入院している重症者は十二日に最多の三百十八人

感染第三波では大阪に看護師を派遣した和歌山県も病床使用率が七割に達しないかも知れない」（県幹部）という。

府医師会の茂松会長は「現場は既に医療崩壊の状況だ。打開策は感染者を減らすしかなく、（飲食店への）休業要請など緊急事態宣言による強い措置に踏み切るべきだ」と訴えた。

まん延防止措置愛知適用へ調整

首都圏3県も可否検討

政府は十三日、愛知県に新型コロナウイルスの「まん延防止等重点措置」を適用する方向で調整に入った。愛知県の大村秀章知事は同日の記者会見で、感染が拡大しているとして適用を政府に要請する考えを示した。政府は正式な要請があり次第、対応する。首都圏の神奈川、千葉、埼玉の三県についても適用の可否を検討し、早ければ今週中に判断する。複数の政府関係者が明らかにした。

に上り、一週間前と比べて二倍超に跳ね上がった。コロナ患者への対応能力を確保するため、府内で重篤な患者に対応する三次救急を行っている十六病院のうち、既に二カ所が受け入れを制限。大阪市立総合医療センターでは重症病床を増やすため、小児救急用を除いて集中治療室（ICU）全てをコロナ用に充てる。府は緊急でない手術や入院の一時延期を要請。どの手術を対象にするかは現場の判断に任されるが、がん患者団体「1・3・5の会」の三木祥男会長は「進行が早いがん患者にも大きな影響が出かねない」と心配する。

重症者は新規感染者の波から一週間程度遅れて増えるために、当面は事態改善の見込みがない。近隣の府県に患者受け入れを頼もうにも「周辺でも感染拡大が著しい状況を考えると難しい」と府幹部は頭を抱える。兵庫県では十三日発表の新規感染者数が三百九十一人と最多を更新し、重症病床も七割が埋まる厳しい状況。京都府は重症病床の使用率が二割だが、週に一・五倍のペースで感染者が増えている。

感染第三波では大阪に看護師を派遣した和歌山県も病床使用率が七割に達しないかも知れない」（県幹部）という。